



PRESS RELEASE (2012/02/22)

工学研究院土木系教員による震災フォーラムを3月11日 に開催 震災フォーラム・東日本大震災から1年が経過して ～九州大学・土木系教員からの調査報告と九州地方の地震防災について～

概要

東日本大震災から1年を迎える平成24年3月11日(日)、工学研究院の土木系教員による震災フォーラムを開催します。震災発生後、多くの土木系教員が現地での調査を行い、そこで得た知見を活かして防災・減災への取り組みを行っています。本フォーラムでは、これまでの取り組みを紹介するとともに、地震災害・地震防災について、市民の皆様方の疑問や不安にお答えし、一緒に考えていきます。

背景

東日本大震災は、未曾有の災害を東日本一帯に引き起こしました。多くの九州大学土木系教員も現地に足を運び被害調査を行い、そこで得た知見を活かして防災・減災への取り組みを行っています。大震災から1年という区切りに、その取り組みを紹介するとともに、市民の皆さんの地震防災に対する疑問に答えるためのフォーラムを開催します。

内容

日時：2012年3月11日(日) 13:30～17:00 (※当日は12:30より開場いたします)

場所：九州大学西新プラザ・大会議室(福岡市早良区西新2-16-23)

主催：九州大学大学院 工学研究院 建設デザイン部門・環境都市部門
九州大学西部地区自然災害資料センター

後援：(社)土木学会西部支部、(社)九州橋梁・構造工学研究会、(社)日本コンクリート工学会九州支部、
(社)地盤工学会九州支部、壬子会

参加費：無料 (事前申込みの必要はありません)

プログラム

13:30～13:35 主旨説明(濱田 秀則 建設デザイン部門長)

13:35～14:20 2011年東日本大震災の特徴と教訓(大塚 久哲 教授)

14:30～15:45 調査報告【前半の部】

- ・観測地震動と構造物の設計で用いられる想定地震動との比較(梶田 幸秀 准教授)
- ・内陸部で発生したアースダムの崩壊による段波津波の脅威(押川 英夫 助教)
- ・複合災害～教訓、課題および今後の対策～(ハザリカ ヘマンタ 教授)
- ・港湾の地震・津波被害と今後の対策(春日井 康夫 教授)
- ・液状化危険度判定の現状(笠間 清伸 准教授)
- ・災害廃棄物処理の現状(島岡 隆行 教授)

15:55～16:30 調査報告【後半の部】

- ・津波被害シミュレーションの現状(浅井 光輝 准教授)
- ・巨大地震による連鎖土砂災害の脅威と予測(陳 光斉 教授)
- ・津波災害で再認識された海岸地形と環境の保全(清野 聡子 准教授)

16:30～17:00 フォーラム参加者とのQ&A(コーディネーター：大塚 久哲 教授)

■効 果

一般市民の皆さんに、土木系教員が東日本大震災から学んだこと、地震災害を防ぐため、地震災害をできるだけ減らすために行っている対策などを広く知っていただくとともに、市民の皆さんの地震災害・地震防災に対する疑問に答えていくことにより、市民の防災・減災への意識向上につながります。

■今後の展開

それぞれの成果を今後の復旧・復興に役立てていくとともに、新たな取り組みや成果については、インターネットを通じて、随時、情報発信していきます。

詳細は、 <http://www.doc.kyushu-u.ac.jp/shindo/2011tohoku/index.htm> をご覧ください。

【お問い合わせ】

大学院工学研究院 教授 大塚 久哲

電話：092-802-3376

FAX：092-802-3376

Mail：otsuka@doc.kyushu-u.ac.jp